

## べてらん母ちゃん 食育活動で奨励賞

葛巻町食生活改善推進員協議会（土谷勝子会長、会員131人）は2月1日、県内での「食育」活動の優良事例として、岩手食育推進協議会（菅原悦子会長）から奨励賞を受賞しました。

町協議会では、食生活改善推進員が講師となって指導する「べてらん母ちゃんの出前食育」に取り組んでいます。昨年度は、葛巻高校生を対象に5回にわたり、地場産物を使った郷土料理の調理実習やミニ講話、学校祭では高校生と協力し「いわて食っ子まつり」を開催するなど積極的な活動が受賞につながりました。同校での出前食育は、今年も継続して行われています。

土谷会長は「これからも皆さんと楽しく交流しながら、食生活の大切さを伝えていきたい」と利用を呼び掛けています。



食生活改善推進員から郷土料理を学ぶ葛巻高校生

## 焼きたてはうまいよ 橋場でせんべい作り

橋場地区では2月11日、橋場生活改善センターで手焼きせんべい作りを楽しみました。有志の呼び掛けで、35人が参加。家に眠っていた昔ながらの鉄製焼き型は22枚も集まりました。せんべいは、小麦粉の生地にゴマなどを載せ、焼き型に挟んで炭火に掛け3分程度で出来上がり。参加者は「焼きたてはおいしいなあす」を連発していました。昼には、せんべい汁やへっちょこ団子も味わい、お茶を飲みながら和やかな時間を過ごしました。有志代表の角口克枝さん(61歳)は「皆さんに喜んでもらえてうれしいです。道具を生かして、次の代にもつなげていきたい」と話しています。



せんべいは6種類。談笑しながら焼き上がり待つ参加者

## 芸達者が勢ぞろい 町婦協の大演芸会

葛巻町婦人連絡協議会（柴田幸栄会長、会員161人）は2月18日、社会体育館で2年に1回の大演芸会を開きました。9地区の婦人会と友情出演4団体が、趣向を凝らして踊りや劇、歌など21演目を披露し、約700人の観客を楽しませました。

恒例の同会役員による寸劇は「家族経営協定」がテーマ。ユーモアあふれる名演技で観客の笑いを誘いながら、家族が役割分担し、働く意欲や楽しみが持てる暮らしの実現に協定が役立つことを伝えました。

同協議会は、今後も仲間との活動を通じて学びや楽しみの輪を広げ、より良いまちづくりを目指します。



息の合った演技で会場を沸かせる新町婦人会の皆さん

## まちづくりに通じる もてなしの心を学ぶ

2月16日、葛巻町観光協会主催の「おもてなしの心研修会」がふれあい宿舎グリーンテージで開かれました。青森市の商人であり、まちづくりのリーダーとして活躍している加藤博さんが「まちぐるみのおもてなし」と題し、講演しました。

商工業者など約60人が参加し、青森市で商業者の目線で行っているまちづくりや、住民や多くの観光客をもてなす心構え・手法を学びました。参加者は「言い訳をしない」「まずやってみる」など機動力を高めるコツなどを聴きながら、これからの葛巻流のおもてなしを考えました。



「危機感を持ち、他にないものを苦勞してでもやる」など、加藤博さん（円内）からまちづくりの極意を学ぶ参加者

## 北緯40度の味くらべ そばフェスタ大盛況

2月17日と18日の2日間、いわて沼宮内駅に隣接する岩手広域交流センターで「第5回いわて北緯40度まんぷくそばフェスタ」が開かれました。

会場には、いわて北緯40度エリアの特産品である「そば」を中心に、たくさんの地元食材が勢ぞろい。本町からは6団体が出店しました。中でも、葛巻町、盛岡市玉山区、八幡平市、岩手町の6団体による「そばコーナー」は、各地域のそばの食べ比べができることもあり、人気の的。そば打ち体験やそば早食い大会、本町の音楽館や馬淵川源流太鼓も参加した演芸大会などが催され、会場は大勢の客で盛り上がりました。



そばコーナーは長蛇の列。「まちの駅くずまき」も初出店（円内）

## 活動への決意を新たに 町青協が結成60周年

結成60周年の節目の年を迎えた葛巻町青年連合協議会（四日市信也会長、会員66人）は2月24日、ふれあい宿舎グリーンテージで記念式典を行いました。

会員や歴代役員など約70人が出席し、これまでの活動を振り返りながら、さらなる活動の充実を誓いました。

青年層が減少し、さまざまな課題に直面する中、「郷土の発展に貢献し、地域に役立つ」「組織を活性化を図り、仲間の輪を広げる」など力強く決意表明しました。記念事業は、ヤマブドウの剪定からワインづくりまでを手掛け、出来上がったワインでパーティの開催などが計画されています。



青年会活動の充実を誓い、式辞を述べる四日市信也会長（中央）